

2011 7月17日~23日

第175号

©日本経済新聞社 2011

2011年7月17日発行(毎週日曜日発行)

平成21年10月13日第三種郵便物承認

日経ヴェリタス

THE NIKKEI VERITAS <http://veritas.nikkei.co.jp/>

完全養殖マグロ 熊本から米へ 水産 広がる拠点 「自給率」は数年で2~3割に

大小の島々が連なり、対岸の山頂には風力発電の白い風車がぼんやりと見える。穏やかな熊本・八代海と東シナ海をつなぐ天草。岸から3キロほど離れて浮かぶオレンジ色のブイは、40四方のいけすを10カ所形作っていた。そこから釣り上げられるのは、3年育った50キロ大のマグロだ。

ブリ養殖が主力のプリミー（熊本県天草市）がマグロ養殖に乗り出したのは2007年。人工的にふ化させる「完全養殖」をなし遂げた近畿大学からマグロの稚魚を購入、10年末から3000匹、150トンほどの出荷にこぎ着けた。

送り先は国内だけではない。3分の1を米国に輸出する。釣るとすぐに血抜きして冷やし、航空便により3日後には現地のすし店などで販売できるといふ。「資源管理に敏感な米国の方が完全養殖のマグロを認めて高く買ってくれる」と浜隆博取締役は自信を示す。銀行からは養殖魚を担保に借り入れし、投資ファンドからも資金を調達。先進的なファイナンス手段を用い世界に打って出る。

国内でマグロの養殖が急速に広がっ

マグロ養殖を手掛ける主な企業

企業名	概要
主な養殖地 マルハニチロHD(1334)	和歌山に漁場を確保。2014年に計年4000トンに
鹿児島、三重、高知	
日本水産(1332)	稚魚からだけでなく、100キロのマグロをさらに太らせる
鹿児島、長崎、京都	
極洋(1301)	2009年秋に初出荷。12年の出荷を目指し愛媛でも開始
高知、愛媛	
双日(2768)	昨年に初出荷し中国にも輸出。2014年に500トンへ
長崎	
三菱商事(8058)	子会社の東洋冷蔵が展開。メルシャンから事業買収も
長崎、和歌山	
豊田通商(8015)	近畿大の完全養殖の稚魚を500グラムの幼魚まで成育
長崎	
日本ハム(2282)	子会社のマリンフーズが愛媛で事業。主に販売で参画
愛媛	
ヨンキユウ(9955)	愛媛の生鮮魚類の流通会社。マグロ養殖で川上にも
愛媛	

養殖の事業主体は傘下企業

ている。資源確保と養殖技術の安定を背景に、地場企業や異業種がこぞって参入した。10年に大西洋のクロマグロの全面禁輸が議論に上ったように、水産物はいまや希少資源。「魚を育てる」日本の先端技術のひとつがマグロに集

約する。

異業種組の双日(2768)は長崎県・鷹島に子会社を設立、前期に初めて出荷した。将来の商機もにらみ中国にも少量を輸出する。三菱商事(8058)も子会社でマグロ輸入国内トップの東洋冷蔵を通じ養殖に進出した。

歴史とノウハウを持つ水産大手ではマルハニチロホールディングス(1334)が和歌山県串本町に生産能力700トンと同社最大の養殖場を建設中。奄美大島などもあわせ、14年度には足元の2倍となる4000トンの生産を目指す。日本水産(1332)も11年度には1700トンを計画し、極洋(1301)は高知に続き愛媛にも昨年、養殖子会社を設立した。

高級マグロとして知られるクロマグロ(本マグロ)やミナミマグロは、世界の漁獲量のほぼ8割、5万トンが日本人の胃袋に流れ込む。足元の養殖量は8000トン程度と見込まれ、2~3年で1万トン強にまで広がりそうだ。「自給率」は2~3割に達し、国内市場が優先とはいえ「評価されれば輸出も広げたい」(双日の半沢淳也・水産第1課長)レベルとなってきた。